

日々の生活の中、何かをしていないと落ち着かない人がいます。その人はする事がないと存在理由が見つからず、焦りを感じます。私たちは焦りを感じた時、焦った事を隠すために、平然と過ごしているような態度をします。ごまかしている時は心の動揺は簡単には治まりません。その時本来ならするべき事ではないことをしてしまいます。昔、流行した人間迷路をした事があるでしょうか。迷路は出口まで短時間で出るゲームです。当然最短ルートを探しながら、時に迷いながらも、ゴールを目指します。しかし時間制限があり、焦りながら出口を目指すのでは楽しむことはできません。そして焦っているとかえって時間がかかり、結果も悪くなります。焦っている行動は良い結果を生むことはできません。私たちは本来何かをする時は楽しみを感じているはずで、「悩みすぎる前に焦りすぎる前に楽しむことを忘れないで」という言葉もあります。私たちは日々の生活で楽しんでいるでしょうか。私たちは自分のすべきことをしているのですが、焦ったり悩みながら行っていくとストレスになり、楽しむことを忘れてしまっています。楽しむことを忘れてしまうと心に余裕がなくなってしまいます。「神の国とは“義と平和と聖霊による喜び”（ローマ14：17）」と書かれています。私たちに“義”がありますでしょうか。まずは不正をしてはいけません。不正とは自分だけが良ければいいという考えが中心におこります。それは他人を蹴落としても良いというようになり、争いが起こります。私たちに良心があります。不正で得たものはうれしいはずもなく、本当の喜びにはなりません。しかし不正を行っている時は不正をしていると感じていないかもしれません。しかし周りが悪影響により、だんだん良い状態でなくなっていくます。毎日を何気なく生活していると気づかないうちに悪くなり、気づいた時は遅いのです。私たちはそのような時に焦ります。目的や目標を持っている人と持たない人との違いはここに現れます。目の前に問題が生じた時にどのように行動するのが違います。焦りによって間違った決断をしてしまった結果というのは私たちに人生を大きく左右します。心が迷っていると焦ってしまい正しい判断ができません。すぐに解決できる問題も解決する事ができなくなります。私たちの目的や目標があれば、次に向かって行く事ができます。（詩篇119：9～19）私たちは旅人であると書かれています。旅には目的がなければ楽しむ事ができません。勘違いしてはいけませんが、私たちの内にある欲も人生を楽しむためには有益です。私たちは目的や目標を見失ってはいけません。ダビデは自分の心がいつも喜んで楽しんでいられるように何をしなければならぬのかを教えてくださいました。ダビデはさとしの言葉を宝として受け入れ、楽しんでいると書いています。私たちが目的、目標を果たすためには良い言葉だけではできません。むしろ自分にとっては受け入れがたい言葉も受け入れなければなりません。そのような言葉を宝とするのではなく、楽しみましょう。これがダビデを通して学ぶ大事なポイントです。私たちは宝を集め、見るときはとてもうれしくなります。楽しんでやっている事は周りの人も楽しくなります。私たちはいつも楽しみを求めているのですが、迷いや焦りは楽しみを取り去ります。私たちは楽しみのある生活をし、達成感を得ることが大事です。目的に向かっていく小さな目標をクリアしていくと自信がついてきます。この良い循環の中で時に訪れる挫折も乗り越えていくことができます。「人はその友によってとがれる（箴27：17）」とあります。私たちにあって受け入れがたい言葉を言ってくれる人こそ宝であり、楽しみましょう。そのためには自分の価値観ではできません。自分の考えを制御しなければいけません。カナンの地を目指して出エジプトした民は男性だけで300万人いました。しかし彼らは40年間も荒野を歩き続けました。なぜそのような事になったのでしょうか。紅海を分けられ、たくさんの奇跡をみましたが、彼らは過去を見てエジプトにいた方が良かったと不平、不満、文句を言っていたからでした。ではなぜエジプトに行ったのでしょうか。それはヨセフの時代まで帰ります。イスラエルの地は飢饉にあいます。そこでエジプトに食料を求めていきます。そこで兄弟から嫌われ奴隷商人に売られていたヨセフがエジプトの大臣にまでなっており、ヤコブと兄弟たちをエジプトの特別な地に居住することになりました。これは神の摂理でした。しかし出エジプトしたイスラエルの民は荒野を歩いていく中で約束された地、カナンへの思いなど忘れてしまいました。私たちは目的を知っています。しかし日々の生活の中に追われてしまい、目的や目標を実際に生活の中で実行する事ができません。そうになってしまうと日々の生活の中で強制されていると感じ、喜びがなくなっていくます。この悪循環を繰り返すと私たちの周りから良いものがなくなっていくます。私たちは焦って迷わないために①**子どもたちから学ぶ**。（マタイ18：2～14）この当時の文化は女性や子どもを蔑ろにしていました。神の国に入るには子ども様な心を持たないと入れないと聖書は書いています。私たちは子どもから何を学ぶ事ができるのでしょうか。子どもがどのようにして楽しんでいるのか、生活しているのかを見て学ぶ事ができます。子どもはいつも先入観で判断しません。子どもは“何ももっていない＝からっぽ”な状態になる事ができます。私たちは大人になる過程で知恵や知識を得てきました。この知恵や知識が私たちを空っぽすることを邪魔します。成功した経験があるとその方法でしかやりません。自分の決めた道しか通らなくなります。次世代である子どもを大切に育てようと思っっているのですが、実は私たちが子どもたちから学ぶのです。子どもたちから学ぶことができなければ他から学ぶことはできません。子どもたちから学ぶことによって私たちは本来の目的を忘れず、日々の生活を送る事ができます。焦って迷わないために②**主の道を楽しむ**。私たちは自分でこのように歩むと決めた道があります。この道を楽しむのです。良い時に喜べるのは誰でもできます。いちじく桑の木の話しがあります。イエスキリストは感謝できない状況でも感謝するように伝えていきます。ダビデは主の道を歩んでいても、サウル王にいのちを狙われた日々を過ごしました。このように自分の思いを越えた事や、違う事などたくさん起こります。しかしそこに喜びを感じて生活するようにいわれています。ダビデは宝と思うだけでなく、楽しんでいたと書いています。ダビデとは“神に愛された人”という意味があります。ダビデは神に愛され、人にも愛されました。（詩篇119：11～15）神は私たちの心の中も行動も見られています。これを忘れてはいけません。私たちの心には神を求めようように作られました。私たちがダビデのように、心の中を見ている方から愛されるようになりましょう。③**迷っている人を導く**。私たちは自分の周りにいる迷っている人々を探して導かなければいけません。私たちが探せば間に合う事ができます。私たちを通して、焦って迷わない方法を教え、導くという目的を持っていれば迷う事はありません。自分だけが幸せになる事を求めてよりも、自分の周りにいる人の幸せを考えましょう。すべての出会いには意味があります。（ヤコブ5：19～20）私たちが焦って迷わない方法は迷っている人を助けることです。他人を見なければ、自分を見ることはできません。私たちが迷っている人々をみる見かたを変えなければいけません。そして自分の問題点に気づかなければ自分を変化させなければなりません。自分が変わらなければ周りは変わることができません。私たちにあって聖書の言葉のなかからどれだけ聴くことができるかが大切なポイントです。その言葉を心に残し、聞き従う事を通して、周りに変わる努力を見せることができます。私たちは子どもたちから学び、裏表がないようにしていきましょう。自分の敵を敵と思わず、自分を愛することく愛していく主の道を歩んでいきましょう。そして迷っている人からどう思われるかではなく、迷っていることが解決して前へと進んでいけるように導いていきましょう。私たちができることはどんな事があっても相手を赦し愛することです。迷っている人々を愛し、導いていきましょう。（要約者：平澤一浩）